

# 産地戦略

実施主体 大仙市えだまめスマート技術実証協議会  
 都道府県 秋田県  
 対象地域 大仙市  
 対象品目 えだまめ



実施期間 令和7～12年度

## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	● 温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	● 温室効果ガスの削減（その他）

## 目指す姿

秋田県大仙市は、県内有数のえだまめ産地であり、本県のえだまめ生産・販売を牽引してきた。  
 また、水稲・大豆を中心としほ場の大区画化や農地集約が進む一方、多くの品目において担い手不足が課題に挙げられていることから、市は民間企業との連携により、スマート農業を推進しており、その一貫としてR T K基地局の設置なども取り組んでいる。  
 今後は、スマート農業を促進させるとともに環境に配慮した農業にも併せて取り組むことで、省力的かつ持続可能な農業を実践するえだまめ産地として更なる発展を目指す。

## 現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	備考
主な作業名		マルチ展開・播種	栽培管理・収穫・調製			マルチの剥ぎ取り・耕起		作型：極早生～中早生
技術名		極早生・早生・中早生品種におけるマルチ栽培						
主な作業名			管理機等による播種	トラクタアタッチ等による中耕・培土	動噴・ブームスプレーヤーによる防除	収穫・調製		作型：中生～晩生
技術名		中生～晩生品種における無マルチ栽培						

## グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	備考
主な作業名		生分解性マルチ展開・播種【環境に優しい】	栽培管理・収穫・調製			耕起【省力化】		作型：極早生～中早生
技術名		極早生・早生・中早生品種におけるマルチ栽培						
主な作業名			自動操舵付トラクタアタッチによる播種【環境にやさしい】【省力化】	自動操舵付トラクタアタッチによる中耕・培土【環境にやさしい】	農業用ドローンによる防除【省力化】	収穫・調製		作型：中生～晩生
技術名		中生～晩生品種における無マルチ栽培						

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R12	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	91.1	91.1	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0	9.1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0	9.1	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	0	9.1	

## 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

### （技術の内容・効果）

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境省力	ポリマルチの活用	生分解性マルチの活用	廃プラスチックの抑制 剥ぎ取り・回収作業の削減
環境省力	作業機による畝立・播種	自走操舵付トラクタによる畝立・播種	使用燃料の削減 作業工程の削減
環境	トラクタによる中耕・培土	自動操舵付トラクタによる中耕・培土	使用燃料の削減
省力	ブームスプレーヤーによる防除	農業用ドローンによる病害虫防除	防除作業の省力化

### （技術の効果の指標・目指すべき水準）

分類	指標	現状	目指すべき水準
環境省力	生分解性マルチ活用による剥ぎ取り・回収作業の削減	1	0
環境省力	自動操舵付トラクタによる畝立・播種工程の削減	2	1
環境	自動操舵付トラクタによる中耕・培土作業における燃料削減に取り組む面積 (ha)	0	9.1
省力	農業用ドローンを活用した省力化に取り組む面積 (ha)	0	9.1

## グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

関係機関の開催する講習会などで、検証技術の実証結果や効果などを周知し、グリーンな栽培体系（環境にやさしい技術、省力化に資する技術）を紹介するとともに、協議会会員を中心に現地指導を行うことで取組面積の増加を目指す。

## 関係者の役割

関係者名	大仙市	JA秋田おぼこ	JA秋田おぼこ枝豆部会	仙北地域振興局
役割	・情報発信 ・支援施策の検討・実施	・情報発信 ・技術指導	・技術実践 ・技術指導	・情報発信 ・技術指導 ・支援施策の検討・実施